慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	小松隆二教授略歴・著作目録
Sub Title	Chronology and bibliography of the writings of Professor Ryuji Komatsu
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2001
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.93, No.4 (2001. 1) ,p.885(215)- 892(222)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20010101-0215

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

小松　隆二教授　略歴・著作目録

＊2001年３月31日をもって慶應義塾大学
経済学部を定年退職するのにともない，
本学会を退会する会員の略歴・著作目録
を次頁に掲載します。

本誌編集委員会

小松　隆二教授　略歴・著作目録

2000年12月1日現在

学　　歴

1961年3月　慶應義塾大学経済学部卒業

1963年3月　慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程修了

1967年3月　慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了

1972年9月　経済学博士（慶應義塾大学）

職　　歴

1963年4月　慶應義塾大学経済学部助手

1969年4月　慶應義塾大学経済学部助教授

1976年4月　慶應義塾大学経済学部教授および大学院経済学研究科委員

1993年5月　慶應義塾義常任理事（平成12年10月まで）

1999年11月　学校法人白梅学園理事（その後理事長代行から理事長に）

2001年3月　慶應義塾退職

（この間，アメリカ合衆国・イリノイ大学，ニュージーランド・カンタベリー大学，イギリス・サセックス大学留学）

所属学会・委員会

学会・研究関係

◇日本ニュージーランド学会，日本公益学会，社会政策学会，日本オセアニア研究所，日本マンスフィールド協会

審議会・委員会

◇山形県総合開発審議会委員，山形県教育問題懇談会委員，酒田市振興審議会委員，秋田県リサイクル・マイン・パーク推進委員会委員，東京都立川労政協議会委員，神奈川県医療協議会委員，日本私立大学連盟財務・人事担当理事者会議委員長を歴任

◇厚生省統計協議会委員，厚生省原爆被爆者医療審議会委員，文部省大学設置・学校法人審議会委員を歴任

賞　罰

昭46年度　慶應義塾大学・義塾賞受賞

昭49年度　財団法人労務研究会・藤林賞受賞

著　作　目　録

著　書

『企業別組合の生成』お茶の水書房，1971年

『社会政策論』青林書院，1974年

『日本アナキズム運動史』青木書店，1975年

『理想郷の子供たち――ニュージーランドの児童福祉――』論創社，1983年

『社会政策』慶應通信（現慶應義塾大学出版会）1985年初版，1993年改定

『難民の時代』学文社，1986年

『ニュージーランドの社会福祉政策』横浜市企画財政局都市科学研究室，1987年

『ニュージーランドの労働事情』日本労働研究機構，1988年

『大正自由人物語』岩波書店，1988年

『イギリスの児童福祉』慶應義塾大学出版会，1989年

『現代社会政策論』論創社，1993年

『ニュージーランド社会誌――理想郷の過去・現在・未来――』論創社，1996年

『公益学のすすめ』慶應義塾大学出版会，2000年

編著・共著

『社会福祉論』相川書房，1976年

『流民』論創社，1980年

『難民問題入門』論創社，1981年

『労使関係講義』青林書院，1981年

El Primer 1o. de Mayo en Japon, El Primer 1o de Mayo en el Mundo, Amcehsmo, 1982

『日本労働運動の先駆者たち』慶應通信，1985年

『労使関係――日本労務管理史第３巻――』中央経済社，1988年

『「寅庚新誌」総目次および若干の資料――創刊100年を記念して――』慶應義塾福沢研究センター，1990年

『法と経済の基本問題』慶応義塾大学産業研究所，1990年

『現代の経済と消費生活』コープ出版，1994年

『下中弥三郎労働運動論集――日本労働運動の源流――』平凡社，1995年

『障害学生の支援――新しい大学の姿――』慶應義塾大学出版会，1996年

『奥井復太郎著作集　別巻』大空社，1996年

『もっと知りたいニュージーランド』（青柳まちこ編）弘文堂，1997年

『現代の経済と消費生活　97』コープ出版，1997年

『ニュージーランドの地方自治事情』（東京都議会議会局），1998年

『ニュージーランド入門』慶應義塾大学出版会，1998年

『ニュージーランド・オーストラリア　先進諸国の社会保障②』東京大学出版会，1999年

『都市論と生活論の祖型――奥井復太郎研究――』（川合隆男・藤田弘夫編）慶應義塾大学出版会，1999年

Roger Peren (ed.), *Japan and New Zealand 150 Years*, NZ Centre for Japanese Studies, Massey University, 1999

『オーストラリア・ニュージーランド　世界の社会福祉』（仲村優一・一番ケ瀬康子編），旬報社，2000年

共　編

J. W. オブライエン他『教育・就労・医療の最前線――講座　人間と福祉障害者とともに――』慶應義塾大学出版会，1998年

E. R. スカーヌルス他『障害者・家族・専門家の共働　――講座　人間と福祉障害者とともに――』慶應義塾大学出版会，1999年

小冊子・単著

『ナショナル・ミニマム論』総理府社会保障制度審議会事務局，1977年

『大正・大震災・自由人』橘宗一少年の墓碑保存会，1990年

『老人福祉政策と国・地域社会システム』東京都港区立消費者センター，1998年

論　文

「足尾鉱毒事件と大杉栄」『自由思想』2号，1960年10月

「石川啄木と大逆事件」『自由思想』4号，1961年2月

「古く新しき啄木」『自由思想』5号，1961年4月

「反逆の女性・金子文子」『自由思想』6号，1961年7月

「大正・昭和初期における自由連合主義労働運動と機関紙誌（1）（2）」『労働運動史研究』35，37号，1962年9月，1963年3月

「戦前日本の労働組合――石川島造船所における労資関係をめぐつて――（1）（2）」『三田学会雑誌』1967年1－2月

「製綱労働組合の組織と活動（上)(下)」『三田学会雑誌』1967年10月-1968年１月

「戦前芝浦製作所における労働運動」『経済学年報』（慶應義塾経済学会）11号，1968年３月

「機械労働組合連合会の組織と活動」『三田学会雑誌』1968年５月

「戦前における企業別組合の展開」『三田学会雑誌』1968年９月

「わが国における労働組合の組織と機能（上)(下)」『三田学会雑誌』1968年11月-1969年２月

「わが国における労働組合思想の生成――佐久間貞一と高野房太郎――」『経済学年報』（慶應義塾経済学会）13号，1970年

「日本におけるアナキズム運動の終焉」『現代と思想』３号，1971年３月

「全国労働組合自由連合会小史」『三田学会雑誌』1971年10月

「日立従業員組合をめぐって――戦前における企業別組合の事例として――」『三田学会雑誌』1972年１月

「庶民の中の国家」『国家論研究』創刊号，1972年２月

「日本労働組合総連合運動をめくって（1)(2)」『三田学会雑誌』1972年４月-５月

「足尾鉱毒事件覚書」『KULIC』（慶應義塾大学研究・教育情報センター）５号，1972年11月

「日本アナキズムの生成と展開」『季刊　社会思想』２巻４号，1972年

「ギロチン社とその人々（1)(2)」（資料）『三田学会雑誌』1973年４月-５月

「テロリスト詩人・中浜哲の思想と生涯（上)(下)」『国家論研究』３，５号，1973年７月，1974年５号

「社会政策の理論にかんする若干の覚書」『三田学会雑誌』1974年４月

「社会政策に関する若干の問題」『三色旗』314号，1974年５月

「足尾鉱毒事件の調停」『三田学会雑誌』1974年９月

「労働組合論の回顧と展望――労使関係研究の現状――」『日本労働協会雑誌』1974年11月号

「社会福祉の理論をめぐって（1)(2)」『三田学会雑誌』1975年４月-５月

「経営者支配と労使関係」『季刊労働法』101号，1976年９月

「社会福祉の基本文献（上)(下)」『三色旗』1976年９-10月

「労働法学と社会政策論」『学会誌労働法』48号，1976年10月

「わが国における児童救護事業の成立」『三田学会雑誌』1976年10月

「減速経済下の社会福祉」『官界』1976年11月

「わが国における産業革命下の児童保護」『三田学会雑誌』1978年２月

「経済学的思考と福祉」『行政管理』（東京都）306号，1978年７月

「企業内少数派組合の動向と問題点――労働組合の原点を問いかけるもの――」『日本労働協会雑誌』1978年８月

「労働運動の現状と展望」『労働教育』（東京都労働経済局）109号，1978年11月

「わが国における感化救済事業下の児童保護（事業)」『三田学会雑誌』1978年12月

「田中正造における中央と地方」『田中正造と足尾鉱毒事件研究』２号，1979年８月

「難民と流民と日本人」『現代の眼』1980年6月

「渡良瀬川沿岸農民の生活と鉱業停止論」『田中正造と足尾鉱毒事件研究』3号，1980年8月

「わが国における社会事業の時代と児童保護」『三田学会雑誌』1981年4月

「難民問題と日本人」『第三文明』1981年4月

「東南アジアの福祉に生きる塾員たち」『三田評論』1981年8・9月

「福祉国家ニュージーランドにおけるインドシナ難民」『エコノミスト』1981年9月22日

「難民キャンプの虚像と実像」『第三文明』1981年10月

「ニュージーラントにおける社会保障法（1938年法）への道」『近畿大学労働問題研究』特集号，1982年2月

「ニュージーランドの里親制度」『ソーシャル・ワーク研究』第8巻1号，1982年7月

「ニュージーランドの障害者福祉」『三田学会雑誌』1982年10月

「労働運動史研究に対する一つの反省――生活視点と労使関係視点の導入をめぐって――」『労働史研究』第1号，1984年4月

「タイにおける農民生活の実態」『三田学会雑誌』1984年6月

「一膳飯屋へちまの主人・望月桂」『図書』（岩波書店）1984年7月

「土の叫び地の囁き――加藤一夫の生涯と思想――」『三田学会雑誌』1985年10月

「戦前版『幸徳秋水全集』考――『幻の全集』の成り立ちと全体像――」『三田学会雑誌』1986年6月

「ある忘れられた社会運動家のこと――中名生幸力の生涯と事績――」『三田学会雑誌』1987年6月

「復刻された『婦人戦線』『黒旗』――高群逸枝・高らかに反強権・自由創意うたう――」『図書新聞』1987年11月21日

「加藤一夫の唐津再訪」『加藤一夫研究』第2号，1987年12月

「ニュージーランドの社会福祉――最近の動向の教えるもの――」『海外社会情報』（厚生省・社会保障研究所）82号，1988年3月

「『義人田中正造翁』の著者柴田三郎の足跡」『田中正造と足尾鉱毒事件研究』7号，1988年7月

「私の見たサッチャー政権下のイギリス」『ERGO』（慶應義塾大学弁論部エルゴー会）6号，1989年8月

「イギリス・ある理想郷への旅」『田中正造と足尾鉱毒事件研究』8号，1989年8月

「加藤一夫が再生するとき」『加藤一夫研究』第3号，1989年11月

「ニュータウンを訪ねて」『ロバアト・オウエン協会年報』14号（1989年），1990年3月

A New Approach to Biographical Studies in Japan : the role of private magazines from late Meiji to early Showa, *Japan Forum*, Volume 1, No.2, British Association for Japanese Studies, October 1989

「日本における労働組合思想の導入過程――労働研究の成立と社会政策――」『日本労働協会雑誌』（日本労働協会），1990年4月

「日本における思想家の個人誌」『三田学会雑誌』1990年９月

「日本労働組合論事始」『三田学会雑誌』1990年10月

「1920年代の足尾鉱毒事件」『三田学会雑誌』1991年４月

「ニュージーランドの家族と福祉政策」『季刊社会保障研究』（厚生省・社会保障研究所），第27巻２号，1991年９月

「田中正造の生家の完全保存」『労働史研究』第５号，1991年10月

「故郷・防己と加藤一夫」『加藤一夫研究』第４号，1992年５月

「国際社会政策の論理」『法学研究』（慶應義塾大学法学研究会）第65巻12号，1992年12月

「小泉信三と社会政策論」『近代日本研究』（慶應義塾福沢研究センター）第９巻，1992年

「社会・政治参加と女性――女性参政権の一〇〇年――」『稲荷山』25号，1993年５月

「ニュージーランドの社会福祉」『月刊福祉』（全国社会福祉協議会）77巻１～３号，1994年１，２，３月

「『坑夫』と労働史研究の素材性」『漱石全集　第四巻　月報　４』1994年３月

「地域を基礎に障害者を考える――ニュージーランドの障害者福祉――」『The Comunity Care』第１巻12号，1994年12月

「ニュージーランド研究の現代的課題」『日本ニュージーランド学会誌』創刊号，1995年６月

「アメリカ・イギリスの大学財政事情」『三田評論』1997年４月

「再考・日本アナキズム運動の歩み」『へるめす』（岩波書店）1997年５月

「『老い』と生活」『三色旗』1997年５月

「新しい時代の学費」『IDE　現代の高等教育』（民主教育協会），388号，1997年７月

「欧米の大学財政から学ぶこと」『カレッジ・マネージメント』（リクルート），85号，1997年７・８月

「私立大学の財政と寄付・贈与」『大学時報』（日本私立大学連盟）260号，1998年５月

「公益学のすすめ」『三田評論』1998年５月

「ニュージーランドにおける年金改革と国民投票――老齢年金法100周年・社会保障法60周年を迎えて――」『海外社会保障情報』（国立社会保障・人口問題研究所編）124号，1998年９月

「1938年社会保障法と現代――研究の手引き――」『日本ニュージーランド学会誌』第４巻，1998年10月

「大学ビッグバンを乗り切る財務戦略」『週刊東洋経済』5552号，1999年４月３日

「ニュージーランドの『脱欧入亜』」『UP』（東京大学出版会），322号，1999年８月

「学校が教育の質，地域との関わりを問われる時代」『地域と教育』（学校法人白梅学園）創刊号，2000年11月

「新世紀に期待する自治体リーダー像」『地方財務』560号，2001年１月